

世界のソーシャル・ビジネス

北米編
米国レモンを乳房に見立て
世界で「乳がん」啓発

レモンを乳房に見立て、乳がんの症状を表現している④ ワールドワイドブレストキャンサーを立ち上げたコリン・エルスワース・ポーモントさん



2017年1月「#knowyourlemons (自分のレモンを知ろう)」という画像が世界中のFacebookを駆け巡った。レモンを乳房に見立て、乳がんの症状を表現したこの写真は、女性向けの自己検診用資料として作られたものだ。早期発見ができれば生存率が高いとされる乳がんゆえに、このキャンペーンは大きな威力を発揮している。

(寺町 幸枝)

乳がんというと、がんの仕組みの解明や治療薬の研究に多くの資金がつかまされてきた。しかし、乳がんに関する知識を女性たち自身が持つていければ、早期発見することができるのではないかな。

そんな思いから、「ワールドワイドブレストキャンサー」を立ち上げたのが、米国出身で在ロンドンのデザイナー、コリン・エルスワース・ポーモントさんだ。

2人の祖母を乳がんで亡くしたポーモントさんは、乳がんを撲滅することはできなくても、早期発見が生存率を上げると知った。だが、乳房の状況を理解するための情報を手に入れることに苦労した。

そこで、アートデザイナーとしての経験を生かし、乳房の代わりにレモンを使った「ビジュアル」で乳がんの資料を作成した。メロンやコーンなどさまざまなものを試したが、レモンを採用したのは、断面図が乳房の構造に似ていたことだったという。

2014年、乳がんが友人を亡くしたことをきっかけに、「ワールドワイドブレストキャンサー」を設立し、本格的にレモンを使った乳がん啓発活動を開始する。

SNSで世界の注目の的へ

15年にわたる地道な活動だったが、米国人女性エリン・スミス・シェーズさんの「Facebook投稿をきっかけに、世界中に一気に広まった。ワールドワイドブレストキャンサーによれば、3つの投稿だけで、約80万人がキャンペーンビジュアルを閲覧し、投稿シェアの回数は8万回を超えた。

現在同団体は、企業パートナーや個人の寄付と、助成金で活動費をまかなっているという。

さらに自己検診に使える「乳がん啓発用アプリ開発」にも力を注ぐ。10月の乳がん月間に向けて、9月にキックスターターでクラウドファンディングを開始予定だ。

日本では2013年から「Run for the Cure」という団体が、このレモンプロジェクトを採用し、乳がんの啓発を行っている。

プログラムマネージャーの緒方貴瑛さんは、「公共の場で堂々と読める資料として男女ともに関心を得ている」と話す。

17カ国に訳された資料は、70カ国で乳がん啓発用のツールとして利用され、ネットを通じて情報が拡散していく。音楽、アプリなど、今後もユニークなアプローチを続けるワールドワイドブレストキャンサーから目が離せない。